

オニヤンマ



御内谷にて

(撮影：桐原佳介)

■日本最大のトンボ

トンボの中でもとりわけ、ネームバリューの大きいオニヤンマ。我が家のそばの水路には、沢山のヤゴが棲み、近くで羽化も見られ、たまにパトロールで室内まで入ってくるこの環境に、この上ない贅沢な思いを感じています。6月後半から、オニヤンマの羽

化が始まり9月頃まで町内で飛び交います。オニヤンマの幼虫が生きることのできる水の流れは、ホタルや小魚などの小さな生き物が多く息づいている証拠。日本最大のトンボが身近な生き物であることに、南部町の豊かさを改めて感じます。飛べるまで3年から5年はかかると言われており、まさに良好な里山環境を代表するトンボの一つです。

■ブツポウソウの好物

オニヤンマの羽化は丁度ブツポウソウの雛の孵化の頃と重なります。町の鳥であるブツポウソウは、オニヤンマをはじめとする大きなトンボが大好物で、一日に何匹も巣箱に運び込まれます。希少な野鳥の命をも支えているオニヤンマですが、この数年、ヤゴの脱殻殻を見かける機会が随分と減りました。大人になるまで時間がかかるヤンマの間がブツポウソウの食欲に追いつかなくなるのではと、心配でもあります。もしご近所

に砂礫で水草が生えている水路がありましたら、草やぶで水面が隠れないように草刈りをする、トンボも産卵しやすくなると思います。人の生活に寄りそって生きている彼らの住処が少しでも多く残され、次世代の子供たちにも日本最大のトンボを手にとってもらいたいものです。



エメラルド色の眼



オニヤンマのヤゴ

自然観察指導員 桐原真希

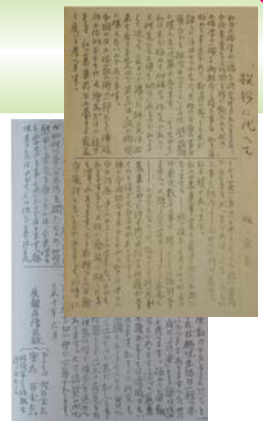
祐生出合いの館【緑水湖畔】 インフォメーション

■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)

板祐生が蒐集についての考え方を述べているのは、大正10年に発行した『おもちゃと絵馬』が最初です。このとき「郷土趣味」として、今でいう郷土芸能や伝承、おもちゃ、絵馬が意識されています。

特に従来のおもちゃが消滅することに対する危機感があり、蒐集には識見が必要で、決して「物好き」や「道楽」ではなく、極めて真剣に行うべきものでなければならぬと述べています。

祐生31歳の時の決意です。



大正10年6月発行